

施策 No.12 教育活動の質の向上										基本計画 掲載頁	78～81
総合評価	B：順調に進捗した	今後の 方向性	I：現状のまま 継続	施策展開の評価数		A	0	B	4	C	0
				(参考)事務事業評価の実施状況		A	1	B	8	C	0
成果	小・中学校の教職員を対象に、外部講師を招いた全体研修会を開催し、教育の在り方について深く考える機会を作ることができた。 また、専門性の高い外部指導者を招致し、教職員の授業力向上を図った。部活動の地域展開については、現状と課題を調査した上で検討委員会を開催しロードマップを作成することができた。			成果・課題を 踏まえた今後 の対応方針	引き続き部活動の地域展開を積極的に推進していくため、部活動地域展開に係る検討委員会を開催し、学校教育への理解等の課題を精査することで、今後の方向性を具体的に検討する。 また、教職員の資質向上のための研修会を継続して実施するとともに、学校教育の質の向上に欠かせない地域の理解やボランティアの方の協力を得るための活動にも注力していく。						
課題	部活動の地域展開を推進するに当たり、地域の方や専門家の方に学校教育への理解をより深めてもらう必要がある。 また、地域ぐるみで学校教育を支援する「学校応援団」の取組では、協力者の固定化・高齢化が課題である。										

主な施策展開の進捗状況（定性的な評価）

【評価の基準】 A：想定以上に進捗した B：順調に進捗した C：進捗が遅れた

(1) 教員の指導力の向上		評価	主な取組実績・評価理由 (※評価「C」とした場合、課題とその対応方針も記載)	所管課
1	各学校が抱える教育課題の解決に向けた研究を支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器の効果的な活用を始めとした授業内容の適宜改善や児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図ります。	B	・Googleアプリやロイロノート・スクールの活用により、一人一台端末の効果的活用や主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善を進めた。 ・学習の個性化や指導の個別化を進め、AI教材のQubenaも活用を広げた。	教育支援課
2	教員の豊かな人間性と実践的な指導力を培うため、Society5.0などの時代に対応した多様な研修を体系的に整備し、授業の改善・指導力の向上を図ります。	B	・学習指導要領の学習内容を確実に身に付けさせるため、ICT機器の活用を取り入れながら、主体的・対話的で深い学びの実現を図るために教科横断的な視点での研修が広がっている。	教育支援課
(2) 学校・地域・関係機関の連携による学校教育の質の向上		評価	主な取組実績・評価理由 (※評価「C」とした場合、課題とその対応方針も記載)	所管課
3	児童生徒の発達段階や実態に応じた指導を行うため、研修や交流会等を通じて小学校・中学校・高等学校の連携を推進します。また、地域・関係機関との連携を強化するため、市内3大学、民間事業者等との連携や学校運営協議会を通じた地域の人材活用に取り組みます。	B	・小学校の生活科の学習や小中学校の総合的な学習の時間における探究的な学習において、地域から有識者をゲストティーチャーとして招聘したり、浄水場を見学したりするなど地域と協働した授業を実施した。 ・市内の高等学校や大学、民間事業者との連携活動を行った。	教育支援課
4	部活動ボランティア指導員や農業支援員など、地域の方々が体験学習を通じ、児童生徒と直接関わり、その知識や技術を伝える制度の充実を図ります。	B	・現在16校の学校では農業支援員に協力していただき、専門的な知識や技術による指導を行うことができています。今後は部活動の地域展開についても推進していくため、部活動ボランティア指導員のようなスポーツ・文化の専門家による学校教育への協力について拡充していく必要がある。	教育支援課

施策のK P I（重要業績評価指標）

【達成度の基準】 A：目標を上回るペースの指標値 B：目標値を達成するペースの指標値 C：目標を下回る指標値

[illegible]